

自動車地球温暖化対策実施方針

《 1 大規模荷主 》

| 事業者名 | 新電元工業株式会社 | 事業所名 | 朝霞事業所 | | | | |
|------|--|--|-------|--|----|----|----|
| 取組措置 | | 具体的取組措置 | | | R3 | R4 | R5 |
| 01 | 荷主の物流部門における二酸化炭素排出量の把握 (01) 二酸化炭素排出量の把握及び課題等の抽出 | 委託事業者の輸送時排出量把握が課題であり、トンキロ法による集計の取組み開始 | | | ○ | ○ | ○ |
| 01 | 荷主の物流部門における二酸化炭素排出量の把握 (02) 貨物輸送事業者及び自社関連部門との情報共有及び改善のための取組実施 | 資材部門・生産管理部門の物流会議で、情報および輸送効率化取組み内容を共有 | | | ○ | ○ | ○ |
| 03 | 物流拠点の活用による輸配送の効率化 () | 社外物流拠点の利用、製品群の出荷拠点見直し等により、輸送効率の最適化を継続的に実施 | | | ○ | ○ | ○ |
| 04 | 積載率の向上による輸配送の効率化 (01) 商品・荷姿・梱包資材の形状の標準化や軽量化等による積載率の向上 | 標準梱包資材の検討、簡易梱包や部材変更の検討等、製品群別の取組みを継続的に実施 | | | ○ | ○ | ○ |
| 04 | 積載率の向上による輸配送の効率化 (02) 混載便の利用や共同輸配送の取組 | 物流拠点での纏め梱包により、輸送便数の削減を継続的に実施 船便輸送の情報を事業部間で共有し、可能な場合は共同輸送を実施 | | | ○ | ○ | ○ |
| 04 | 積載率の向上による輸配送の効率化 (03) 輸送量及び積載率を考慮した適正車種での発注 | 製品のサイズ・重量・梱包形態に応じた、適切な輸送車種選択を継続的に実施 | | | ○ | ○ | ○ |

自動車地球温暖化対策実施方針

| | | | | |
|--|---|---|---|---|
| <p>05 計画的な貨物輸送による輸配送の効率化 (01) 発注時間及び配送時間のルール化</p> | <p>小口宅急便の社内発送窓口を一本化、かつ定期集荷時間を取り決め、当社への集荷回数を削減</p> | ○ | ○ | ○ |
| <p>06 その他輸配送の効率化により輸送距離及び回数を削減する取組 ()</p> | <p>関係会社と連携し、最適輸送路・輸送方法の見直しを継続的に実施 定期輸送便の頻度見直し(廃止含む)による輸送頻度の最適化を継続的に実施</p> | ○ | ○ | ○ |
| <p>07 低燃費車等の積極的利用及びエコドライブの促進 (02) 貨物輸送事業者に対する、エコドライブの実施要請</p> | <p>来場車両入門時の啓発活動を実施</p> | ○ | ○ | ○ |
| <p>07 低燃費車等の積極的利用及びエコドライブの促進 (04) 周辺道路への路上駐停車及び構内アイドリング防止のための取組</p> | <p>①事業所内のアイドリングストップ実施を社内規定に明記し、従業員・来場者に順守させる。 ②事業所レイアウトを運搬車両が常時入構できるように設計。路上駐車不要な仕組みとした。</p> | ○ | ○ | ○ |